

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



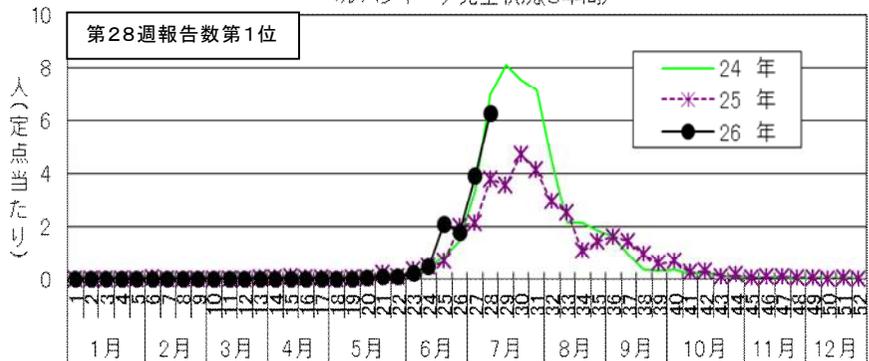
KAWASAKI CITY



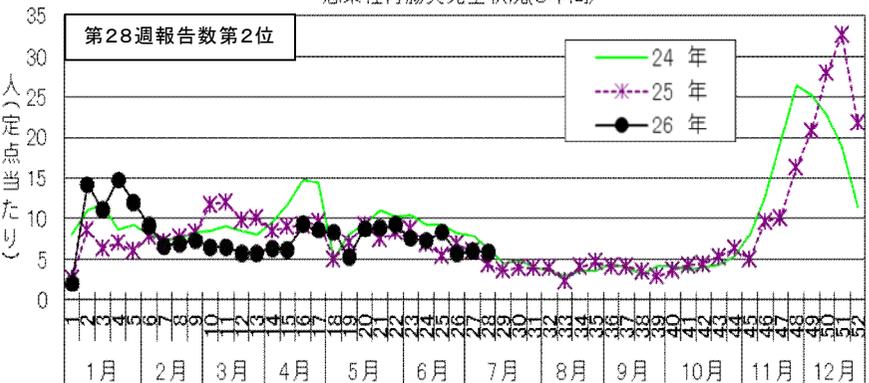
平成26年7月7日（月）～平成26年7月13日（日）〔平成26年第28週〕の感染症発生状況

第28週で定点当たり報告数の多かった疾病は、1)ヘルパンギーナ 2)感染性胃腸炎 3)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。
 ヘルパンギーナは定点当たり6.27人と前週（3.91）より患者報告数は増加し、流行発生警報基準値である定点当たり6人を上回りました。
 感染性胃腸炎は定点当たり5.85人と前週（5.94）より患者報告数は減少しましたが、例年より高いレベルで推移しています。
 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は定点当たり1.94人と前週（2.09）から患者報告数は減少しましたが、例年より高いレベルで推移しています。

ヘルパンギーナ発生状況(3年間)



感染性胃腸炎発生状況(3年間)



1歳と2歳は要注意！！～ヘルパンギーナ～

第28週のヘルパンギーナの患者報告数が、定点当たり6.27人となり、流行発生警報基準値である定点当たり6人を上回りました。現在、全国的にも1～2歳の小児を中心に流行しています。

ヘルパンギーナの特徴は？

潜伏期間：2～4日間

症状：高熱（38～40℃）、咽頭痛（のどの痛み）、のどの奥に白い水疱性の粘膜疹

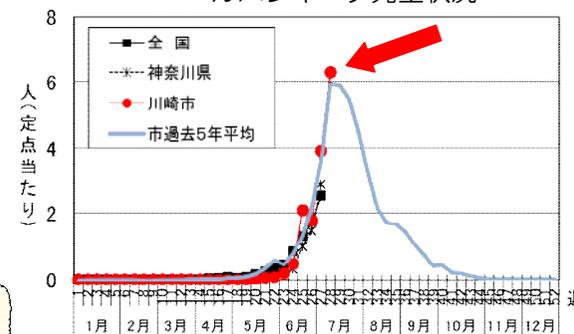
感染経路：患者ののどからの分泌物や便から感染（接触を含む糞口感染・飛沫感染）

※症状がなくなっても、1～4週間は患者の便の中にウイルスが排泄されます。



例年、患者の約9割が5歳以下ですので、保育園や幼稚園での流行にご注意ください。外から帰った後、食事の前、トイレやおむつ替えの後などの「手洗い」を徹底しましょう。

ヘルパンギーナ発生状況



市内の年齢階級別発生状況（第28週）

